

世田谷村日記

石山修武

七月三日

教室会議後稲門建築会幹事会。久し振りにOB諸氏にお目にかかる。猪苗代の計画をスケッチする。面白いアイデアが生まれて、乗り始めた。大学の帰り道、電子情報生命工学科の松本隆教授と一緒にいる。理工学部の将来についてお互い、シニカルになつていて、ヤル時はヤルかと理由の知れぬ事をつぶやき合った。彼は学院時代の同級生で、早稲田文学というのは本質的に民の大学で、野の精神を持たねば深いところでの文化的価値は無いのを高校の時から、マ植え付けられているからな。信頼できる。国立大学の尻を追って何が早稲田だ。

七月四日

朝猪苗代湖のアイデアがまとまりかかる。院レクチャーは休みにして昼迄エスキスに没頭する。マスタープランはともあれ、二期計画までは大体視えてきた。すぐにでもとりかからねばならぬ一期計画は世田谷で、二期はN棟スタジオにやらせてみるか。N棟の建て直しにもなるだろう。

七月五日

茅野行。因製材所下の藤森照信の地所で作業が行われていた。#5朝山邸の木組を見る。想像を超えた木の大きさだ。安藤の図面その他で考えていた考え方を変えねばならぬのを直観した。大

工の細田佑二さん達と夕方茅野駅近くで食事。あの小住宅には異様な大きさの材をどう手なづけてゆくか、あの材は荒馬だ、どう乗りこなせば良いか。深夜、世田谷村帰着。

七月六日 日曜日

夜中、月下美人咲く。先日は一つ咲いたのに気付かなかった。本当に音も無く、アツと言いつきに咲いて、フツとしおれてしまうのだ。今日は終日、猪苗代スケッチ。夕方、散歩して栄寿司に行く。夜、中川さん、友部さん、栗畑君来宅。聖徳寺の打合わせ。

七月七日

朝世田谷地下ミーティング。二十三時迄打ち合わせ続く。今夜も月下美人咲く。

七月八日

朝学部レクチャー。課題に「日常生活用品」を出したら、驚くべき収穫があつた。今の学生はこういところで並々ならぬ才能と情熱を発揮するんだ。全ての提出物をコピーして保管する。この世代はすでに、近未来の産業構造を身近で感じとっているのかも知れないな。今、二十一時五〇分京王線新宿発の車内。何だか逆風の中の電車に乗り込んでいる感じ。と言うよりも氷河期の中に閉じ込められている風でもある。建築という形式は、特に近代以降の形式は消失への経を転げ落ちている最中なのだろうか。文化としての建築という概念は遂に日本では成立し得ないのか。瀬戸際だと思う今は。しかし、環境という概念には核が無い。カゲローミみたいなモノだ。この枠に、簡単に移行させる訳にはいかない。技術的な基盤なしに環境を唱えている人物の思想的、と言う

よりも人間としての品格の倉相さには眼をそむけたくなるモノがある。

七月九日

朝J・グライターのレクチャー「From Virtual Reality To Virtual Materiality : Architecture in the Age of Mass Media」
聞く。デカダンスと表層、つまり最近の流行建築、ルイ・ヴィトン等の原宿スタイルの関係を歴史的に説いた。大学院生には勿体ないようなレクチャーであった。江戸末のデカダンスと今の状況を比較考察してみるかな。でも今の状況はむしろ平安末期だろうな。オープン・テック・ハウス#5朝山邸のH・Pへのプレゼンテーション方法を考える。これはオープン・テック・ハウスの筋道にとっては問題児だな。